

証券コード 3377
2024年2月8日
(電子提供措置の開始日2024年2月5日)

株 主 各 位

東京都世田谷区若林三丁目15番4号
株式会社バイク王&カンパニー
代表取締役社長執行役員 石川 秋彦

第26回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。

さて、当社第26回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申しあげます。

本株主総会の招集に際しては電子提供措置をとっており、インターネット上の下記ウェブサイト「第26回定時株主総会招集ご通知」として電子提供措置事項を掲載しております。

当社ウェブサイト <https://www.8190.co.jp/ir/stock/shareholder.html>



また、上記のほか、インターネット上の下記ウェブサイトにも掲載しております。

東京証券取引所ウェブサイト

<https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>



上記の東京証券取引所ウェブサイトへアクセスして、当社名又は証券コードを入力・検索し、「基本情報」「縦覧書類/PR情報」を順に選択のうえ、ご覧ください。

なお、当日ご出席されない場合は、書面によって議決権を行使することができますので、電子提供措置事項に掲載の株主総会参考書類をご検討いただき、お手数ながら同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、2024年2月26日(月曜日)午後6時30分までに到着するようご返送くださいますようお願い申しあげます。

敬 具

記

1. 日 時 2024年2月27日(火曜日)午前10時(受付開始 午前9時)
2. 場 所 東京都港区海岸一丁目11番2号
アジュール竹芝 14階「天平の間」
3. 会議の目的事項
- 報告事項 第26期(2022年12月1日から2023年11月30日まで)事業報告および計算書類報告の件
- 決議事項
- 第1号議案 第26期剰余金処分の件
- 第2号議案 取締役(監査等委員である取締役を除く。)5名選任の件
- 第3号議案 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件

以 上

- ~~~~~
- ◎株主総会当日の開場時刻は午前9時を予定しております。当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。また、資源節約のため、本招集ご通知をご持参くださいますようお願い申し上げます。
 - ◎議決権行使書面において、議案に賛否の表示がない場合は、賛成の意思表示をされたものとして取り扱わせていただきます。
 - ◎電子提供措置事項に修正が生じた場合は、掲載している各ウェブサイトに掲載させていただきます。
 - ◎株主総会にご出席の株主様へのお土産をご用意しておりません。何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。

事業報告

(2022年12月1日から
2023年11月30日まで)

1. 会社の現況に関する事項

(1) 当事業年度の事業の状況

① 事業の経過および成果

当事業年度における我が国経済は、7－9月期の実質GDP成長率が年率換算-2.9%と3四半期ぶりのマイナス成長となり景気回復に一服感がみられました。また、11月の内閣府の景気ウォッチャー調査では、「景気は緩やかな回復基調が続いているものの、一服感が見られる。先行きについては、物価上昇の影響等を懸念しつつも、緩やかな回復が続く」との見方が示されています。懸念されている物価上昇には、依然強さがみられるものの、9月、10月のコアCPIは2か月連続で3%を割り込んでおり、落ち着きもみられます。このように、個人消費回復の大きな足かせとなっている実質賃金の低下要因が解消されるような兆しが見受けられることも、今後の緩やかな景気回復の見方を支えています。一方、地政学リスクには、長引くウクライナ紛争に、イスラエル・パレスチナ紛争も加わり、我が国の景気への新たな不安材料となるなど、警戒感は持続しています。

当社が属するバイク業界におきましては、コロナ禍による人々の行動の変化としてリターンライダーや新規ライダーの増加に表れるバイク志向の高まりがみられました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う行動制限緩和や経済活動の正常化などの環境の変化が生じています。具体的には、消費の選択肢が増えたことによるバイク需要に向かった消費の分散化をはじめ、新車供給の回復による新車と中古車の販売価格の差異が縮小、物価高騰に伴う趣味嗜好性への消費が抑制されたままと推察しております。ただし、当社が主力商材とする高市場価値車輛の保有台数は年々増加傾向かつ中古流通台数が不足しているため、オークション相場は未だ高い水準を維持し堅調な需要は続くものと判断しております。

国内におけるバイクの保有台数は約1,031万台（前年比0.2%増）と前年を上回り、当社の主力仕入とする高市場価値車輛である原付二種以上も約582万台（前年比3.3%増）と前年を上回っております※1。新車販売台数においては、約36万台（前年比4.4%減）と前年を下回り、高市場価値車輛も同様に約23万台（前年比8.1%減）と前年を下回っておりますが、依然として高い推移を維持しております※2。

※1. 出典：一般社団法人日本自動車工業会(2022年3月末現在)

※2. 出典：一般社団法人日本自動車工業会(2022年実績)

このような状況のもと、当社は持続的な成長に向けてコーポレートミッションとして「まだ世界にない、感動をつくる。」を掲げ、ビジョンである「バイクライフの生涯パートナー」の実現を目指しております。

そのうえで、2023年11月期中期経営計画においてUX（顧客体験）グロースモデルを確立し、①店舗開発によるお客様接点の増加、②CRMシステムの構築によるデータに立脚したマーケティング活動、③サービス拡充・整備事業のネットワーク化を図ってまいりました。その結果、①新規・移転増床合わせて10店舗を開発、②CRMシステムを活用した新規会員獲得と利用促進を図ることで会員数増加、③整備を希望する様々なニーズを持つユーザーと、それらのニーズを満たすバイクショップをマッチングさせるサービス「BOCS(ボックス)」の運用を開始いたしました。

また、前事業年度は関連会社からの臨時的な受取配当金を営業外収益として計上しておりましたが、当事業年度においては発生いたしませんでした。

加えて、当社の非連結子会社である株式会社ライフ&カンパニーと株式会社バイク王ダイレクトの吸収合併を踏まえ、保有株式の評価減90,000千円および当社から子会社への貸倒引当金81,363千円に加え、不採算となっている店舗の減損処理45,603千円を実施した結果、合計219,911千円の特別損失を計上いたしました。

以上の結果、売上高33,068,034千円（前期比1.2%減）、営業損失166,081千円（前期は1,653,702千円の営業利益）、経常利益150,387千円（前期比93.3%減）、当期純損失110,760千円（前期は1,550,042千円の当期純利益）となりました。

② 設備投資の状況

当事業年度において実施した設備投資等の総額は895,393千円であり、その主な内訳は以下のとおりであります。

店舗の新設・移転工事	275,353千円
車両運搬具	233,696千円
店舗及び駐車場の敷金及び保証金	128,468千円
CRM関連システム開発	118,246千円
BtoBプラットフォーム開発	67,580千円
認証整備工具及び整備器具備品	40,038千円
既存店舗への設備投資関連費用	27,948千円

③ 資金調達の状況

特記すべき事項はありません。

(2) 財産および損益の状況

区 分	第23期 (2020年11月期)	第24期 (2021年11月期)	第25期 (2022年11月期)	第26期 (当事業年度) (2023年11月期)
売 上 高 (千円)	22,349,284	26,570,000	33,480,946	33,068,034
営 業 利 益 又 は 営 業 損 失 (△) (千円)	707,606	1,558,930	1,653,702	△166,081
経 常 利 益 (千円)	859,894	1,770,170	2,259,315	150,387
当 期 純 利 益 又 は 当 期 純 損 失 (△) (千円)	594,283	1,226,182	1,550,042	△110,760
1 株 当 たり 当 期 純 利 益 又 は 当 期 純 損 失 (△) (円)	42.55	87.80	110.99	△7.93
総 資 産 (千円)	7,655,575	9,248,976	12,017,339	12,054,809
純 資 産 (千円)	4,580,793	5,660,425	6,925,516	6,394,172
1 株 当 たり 純 資 産 額 (円)	328.01	405.31	495.90	457.84

- (注) 1. 記載金額は千円未満を切捨て、「1株当たり当期純利益又は当期純損失」および「1株当たり純資産額」は小数点以下第2位未満をそれぞれ四捨五入して表示しております。
2. 「1株当たり当期純利益又は当期純損失」は期中平均発行済株式総数に基づき、「1株当たり純資産額」は期末発行済株式総数に基づき算出しております。なお、発行済株式総数につきましては、自己株式を控除した株式数によっております。また、役員向け株式給付信託および従業員向け株式給付信託に係る信託財産は控除する自己株式に含めております。
3. 第25期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しており、第25期以降の財産および損益の状況については、当該会計基準等を適用した後の数値を記載しています。

(3) 重要な親会社および子会社の状況

① 親会社の状況

該当事項はありません。

② 重要な子会社の状況

該当事項はありません。

(4) 対処すべき課題

当社は、以下の経営方針を掲げております。

経営方針

当社は、次に定める経営理念に基づき、ビジョンの実現を通じた持続的な成長と社会的な存在意義の創出および中長期的な企業価値の向上を図ってまいります。

<経営理念>

常に成長を求める事 共に成長を喜べる事

お客様の笑顔を追求する事

社会の発展に寄与する事 未来への文化を創造する事

そして常に夢を持ち続け愛される企業を実現します

<ビジョン>

当社は、「バイクライフの生涯パートナー」をビジョンとして掲げております。

当社が掲げる「バイクライフの生涯パートナー」とは、従来のバイク買取専門店としての「バイク王」から、バイクに係る全てのサービスを総合的に提供する「バイクのことならバイク王」と言われるブランドへ進化することを目指すものです。

そして、一人ひとりのお客様満足度のさらなる充実とともに長期にわたって多くのお客様に支持していただける企業となること、さらに、お客様とともにより豊かなバイクライフを創り上げていく企業となることを実現したいと考えております。

当社は持続的な成長に向けて新たにコーポレートミッションとして「まだ世界にない、感動をつくる。」を掲げ、ビジョンである「バイクライフの生涯パートナー」の実現に向けて確実に経営戦略を遂行していくため、上記を踏まえ、以下の課題について対処してまいります。

① 財務体質の健全化

当社は、経営の健全性を保つと共に、キャッシュ・フローを重視した経営を実現するため、在庫管理の徹底による在庫高の適正化を図ってまいります。また、投資基準の厳格化や事業および店舗単位での新たな損益管理体制を構築することにより、より強固な財務基盤を構築してまいります。

② 収益力の強化、バイク事業の再成長

当社は、お客様一人ひとりのライフサイクルに合わせた最適なサービス・商品を提供することにより、顧客満足度を高めるためのCRM（カスタマーリレーションシップマネジメント）戦略を推進してまいりました。しかし、バイク事業においては、営業管理、マーケティング、サービス開発の側面で、収益力をさらに高めることができると考えております。これらの課題に対処するため、新たな仕入プロセス管理手法の導入と運用、OJT実施体制の強化に努めてまいります。同時に、マーケティング戦略の実行により、ブランド力の向上を図ると共に、新規のお客様、乗換層のお客様、手放層のお客様のニーズを的確に捉えたうえで、効果的なアプローチ手法を確立してまいります。また、広告に頼らない仕入チャネルの開発・強化に取り組んでまいります。そして、それらの戦略を通じて、収益力の強化を図り、バイク事業の立て直しに努めてまいります。

③ 営業人財基盤の強化

当社は、持続的な成長を目指したHRM（ヒューマンリソースマネジメント）を実施することに加え、国籍、性別、性的指向、年齢等をはじめとした様々な人財の多様性を尊重し、社員一人ひとりの能力が最大限発揮する環境を構築してまいります。その上で、バイク事業の立て直しを図るにあたり、営業人財の採用、育成による組織力の向上を図り、企業価値向上に資する人財基盤の強化に努めてまいります。

④ 労働生産性の向上

当社は、バイク事業の立て直しを図るにあたり、間接部門の労働生産性向上により、営業業務支援を拡充することで、営業基盤の更なる強化に努めてまいります。その実現に向け、定型・既存業務における外部資源の活用、システム化による効率改善に努めると共に、間接部門によるサポートの継続と充実を図ってまいります。

(5) 主要な事業内容(2023年11月30日現在)

事業名	事業内容
バイク事業	バイク買取・小売販売

(6) 主要な事業所(2023年11月30日現在)

名称	所在地	
本社	東京都世田谷区	
コンタクトセンター	埼玉県さいたま市大宮区	
第二コンタクトセンター	秋田県秋田市	
第三コンタクトセンター	山口県山口市	
横浜物流センター	神奈川県横浜市鶴見区	
寝屋川物流センター	大阪府寝屋川市	
神戸物流センター	兵庫県神戸市中央区	
店舗	北海道・東北エリア	宮城県仙台市泉区等6店舗
	関東エリア	埼玉県上尾市等31店舗
	甲信・北陸エリア	長野県長野市等4店舗
	東海エリア	愛知県名古屋市港区等9店舗
	近畿エリア	兵庫県伊丹市等15店舗
	中国・四国エリア	岡山県岡山市北区等5店舗
	九州・沖縄エリア	福岡県糟屋郡等9店舗

(注) 当社は、2023年8月14日付をもって、本社を東京都港区海岸三丁目9番15号から東京都世田谷区若林三丁目15番4号に移転いたしました。

(7) 使用人の状況(2023年11月30日現在)

当社の使用人の状況

使用人数	前事業年度末 比増減	平均年齢	平均勤続年数
1,037名	57名増	34.2歳	7.9年

(注) 正規使用人のみで派遣社員・パートタイマーは含んでおりません。

(8) 主要な借入先の状況(2023年11月30日現在)

借入先	借入金残高
株式会社三井住友銀行	1,578,975千円
株式会社三菱UFJ銀行	1,000,000千円
株式会社みずほ銀行	200,000千円

(9) その他会社の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

3. 会社の新株予約権等に関する事項

- (1) 当社役員が保有している職務執行の対価として交付された新株予約権の状況
(2023年11月30日現在)
該当事項はありません。
- (2) 当事業年度中に職務執行の対価として使用人等に対し交付した新株予約権の状況
該当事項はありません。
- (3) その他新株予約権等に関する重要な事項
該当事項はありません。

4. 会社役員に関する事項

- (1) 取締役の状況(2023年11月30日現在)

会社における地位	氏 名	担当および重要な兼職の状況
代表取締役社長執行役員	石 川 秋 彦	内部監査室管掌
取 締 役 会 長	加 藤 義 博	
取締役常務執行役員	大 谷 真 樹	デジタルプロモーション部門管掌 (株)ライフ&カンパニー 代表取締役
取締役常務執行役員	澤 篤 史	バイクライフプランニング事業部・流通事業部管掌 (株)バイク王ダイレクト 代表取締役 (株)オズ・プロジェクト 代表取締役 (株)ヤマト 取締役
取 締 役 執 行 役 員	小 宮 謙 一	経営戦略部門・管理部門管掌
取 締 役 (常勤監査等委員)	上 沢 徹 二	
取 締 役 (監 査 等 委 員)	三 上 純 昭	(株)日本ビジネスマッチング 代表取締役
取 締 役 (監 査 等 委 員)	森 順 子	森合同法律事務所 代表弁護士

- (注) 1. 取締役常務執行役員大谷真樹氏は、当社完全子会社であった株式会社ライフ&カンパニーの代表取締役を兼職しておりましたが、2023年12月1日付で同社が当社に吸収合併されたことに伴い、同氏は同社代表取締役を退任しております。
2. 取締役常務執行役員澤篤史氏は、当社完全子会社であった株式会社バイク王ダイレクトの代表取締役を兼職しておりましたが、2023年12月1日付で同社が当社に吸収合併されたことに伴い、同氏は同社代表取締役を退任しております。
3. 取締役三上純昭氏および森順子氏は、社外取締役であり、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
4. 監査等委員会の監査の実効性を高め、情報収集その他内部統制部門等との

連携強化を目的に、上沢徹二氏を常勤の監査等委員として選定しております。

5. 常勤監査等委員である取締役上沢徹二氏は、金融機関および事業会社における長年に亘る豊富な経験と幅広い知識を有しており、また、役員として企業経営に携わっていた経験により、財務・会計およびガバナンスに関する経験ならびに相当程度の知見を有しております。

【ご参考】独立社外取締役の独立性判断基準

当社は、東京証券取引所が定める独立性基準を踏まえ、当社の社外取締役の独立性判断基準を定めております。

詳細は、「バイク王&カンパニー・コーポレートガバナンス基本方針」をご参照ください。

「バイク王&カンパニー・コーポレートガバナンス基本方針」

<https://www.8190.co.jp/ir/strategy/governance.html>

(2) 事業年度中に退任した取締役

齊藤友嘉氏は、2023年2月24日開催の第25回定時株主総会終結の時をもって任期満了により社外取締役を退任いたしました。

(3) 責任限定契約の内容の概要

当社と監査等委員である取締役は、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償の限度額は法令が規定する額を限度額としております。

(4) 会社の役員等賠償責任保険契約に関する事項

当社は会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者が当社の役員としての業務につき行った行為（不作為を含む）に起因して損害賠償請求がなされたことにより、被保険者が被る損害賠償金や争訟費用等を補償するものとなります。ただし、贈収賄などの犯罪行為や意図的に違法行為を行った役員自身の損害等は補償対象外とすることにより、役員等の職務の執行の適正性が損なわれないように措置を講じております。

当該役員等賠償責任保険契約の被保険者は、当社および当社の子会社の取締役（監査等委員を除く）、監査等委員である取締役、監査役および執行役員であり、その保険料を全額当社が負担しております。

(5) 当事業年度に係る取締役の報酬等

① 取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針に関する事項

当社は、2023年2月24日開催の取締役会において、取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針を決議しております。

当社の取締役の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の決定権限を有する者は取締役会であります。また、公正かつ透明性の高い取締役の評価を行

うため、構成員の半数以上を社外取締役とする諮問委員会で取締役の報酬について協議し、その結果を代表取締役および取締役会へ答申しております。

取締役会は、当事業年度に係る取締役（監査等委員である取締役を除く。）の個人別の報酬等について、報酬等の内容の決定方針および決定された報酬等の内容が取締役会で決議された決定方針と整合していることや、諮問委員会からの答申が尊重されていることを確認しており、当該決定方針に沿うものであると判断しております。

取締役の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は以下のとおりです。

1. 基本方針

・経営理念および「バイクライフの生涯パートナー」の実現に向けた優秀な経営陣の確保に資するものであること

・会社業績との連動性が高く、かつ透明性・客観性が高いものであること

・株主との利益意識の共有や株主重視の経営意識を高めることを主眼としたものであること

・中長期的な業績の向上と企業価値の増大への貢献意識を高めるものであること

具体的には、取締役の報酬は、固定報酬、業績連動報酬等および非金銭報酬等としての株式報酬により構成しております。ただし、監査等委員である取締役については、その職務に鑑み、業績連動報酬等を支払わないものとしております。

2. 固定報酬（金銭報酬）の個人別の報酬等の算定方法の決定に関する方針

取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬決定については、株主総会において決議された総額のうち、経営にかかわる技能・知識・経験等の適性および業績に対する貢献度等を総合的に鑑み、妥当であると考えられる金額を取締役会にて協議して決定いたします。具体的には、職責、在任期間、個人実績および役位に応じて定めております。

監査等委員である取締役の報酬決定については、株主総会において決議された総額内にて、監査等委員会において協議し、決定いたします。

3. 業績連動報酬等の内容および額の決定に関する方針

取締役（監査等委員である取締役を除く。）の業績連動報酬は、経常利益を判定基準として、その達成状況に応じて株主総会で決議された限度額から固定報酬を控除した金額の範囲内で決定することとしております。判定金額を経常利益として選択した理由は、当社の成長性と収益性の重要な経営上の指標として、経常利益を具体的な指標としているためです。なお、当事業年度における業績連動報酬に係る指標の目標は、経常利益2,150百万円以上で段階的に変動報酬を設定しており、実績は150百万円であります。

4. 株式報酬等（非金銭報酬等）の内容および額の決定に関する方針

非金銭報酬は、当社株式および当社株式の時価相当額の金銭の給付を行う株式報酬制度による株式給付信託とし、固定報酬および業績連動報酬とは別枠で、取

取締役（監査等委員である取締役を除く。）については、取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬と当社の業績および株式価値との連動性を明確にし、取締役（監査等委員である取締役を除く。）が株価上昇によるメリットを享受するのみならず、価格下落リスクまでも株主の皆様と共有することで、中長期的な企業価値の増大への貢献意欲を高めることを目的に、監査等委員である取締役については、監査等委員である取締役が、株主の皆様との価値共有により、監査を通じた中長期的な企業価値の増大に貢献することを目的に、当社が定める株式給付規程に基づき、取締役（監査等委員である取締役を除く。）に対しては、役位および業績達成度等に応じて算出されたポイントを、監査等委員である取締役に対しては、役位に応じて算出されたポイントを毎年付与し、2022年11月末日で終了する事業年度から2024年11月末日で終了する事業年度までの3事業年度（以下、「当初対象期間」といいます。）および当初対象期間の経過後に開始する3事業年度それぞれの最終事業年度の業績評価確定後に付与ポイント数に相当する当社株式（ただし、その一部は当社株式の時価相当額の金銭の給付とします。）を交付します。

② 取締役の報酬等に関する株主総会の決議に関する事項

当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬限度額は、2017年2月24日開催の第19回定時株主総会において年額200,000千円以内と決議いただいております。また、別枠で2022年2月25日開催の第24回定時株主総会において、取締役（監査等委員である取締役および社外取締役を除く。）に対する株式報酬制度として、対象期間3事業年度ごとに、拠出額189百万円以内、付与するポイントを94,560ポイント以内（1ポイントにつき1株）と決議いただいております。決議当時の対象取締役は5名であります。

監査等委員である取締役の報酬限度額は、2017年2月24日開催の第19回定時株主総会において年額30,000千円以内と決議いただいております。また、別枠で2022年2月25日開催の第24回定時株主総会において、監査等委員である取締役に対する株式報酬制度として、対象期間3事業年度ごとに、拠出額18百万円以内、付与するポイントを8,550ポイント以内（1ポイントにつき1株）と決議いただいております。決議当時の対象取締役は3名であります。

③ 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額および対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額	報酬等の種類別の総額			対象となる役員の員数
		固定報酬	業績連動報酬等	非金銭報酬等	
取締役 (監査等委員を除く)	146,544千円	126,120千円	20,424千円	-	5名
取締役 (監査等委員) (うち社外取締役)	27,957千円 (10,634千円)	25,200千円 (9,600千円)	-	2,757千円 (1,034千円)	4名 (3名)
合計 (うち社外取締役)	174,501千円 (10,634千円)	151,320千円 (9,600千円)	20,424千円	2,757千円 (1,034千円)	9名 (3名)

- (注) 1. 上記には、当事業年度中に退任した取締役（監査等委員）1名を含んでおります。
2. 支給人員は、延べ人数を記載しておりますが、当事業年度末日における取締役（監査等委員を除く）は5名、取締役（監査等委員）は3名であります。
3. 上記の非金銭報酬等の額は、信託制度を利用した株式報酬制度（株式給付信託）の当事業年度に付与した株式付与ポイントに係る費用計上額を記載しております。

(6) 社外役員に関する事項

① 他の法人等の重要な兼職の状況および当社と当該他の法人等との関係

- ・社外取締役（監査等委員）三上純昭氏は、㈱日本ビジネスマッチングの代表取締役であります。なお、当社と㈱日本ビジネスマッチングとの間には特別の関係はありません。
- ・社外取締役（監査等委員）森順子氏は、森合同法律事務所の代表弁護士であります。なお、当社と森合同法律事務所との間には特別の関係はありません。

② 当事業年度における主な活動状況

地 位	氏 名	主な活動状況および社外役員が果たすことが期待される役割に関して行った職務の概要
社外取締役 (監査等委員)	三上純昭	当事業年度開催の取締役会20回中20回に出席し、報告事項や決議事項について、役員として企業経営に携わっている経験に基づき、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。 当事業年度開催の監査等委員会14回中14回に出席し、内部統制等について適宜、必要な発言を行っております。
社外取締役 (監査等委員)	森 順子	2023年2月24日就任後の当事業年度開催の取締役会16回中16回に出席し、主に弁護士としての専門的見地から意見を述べ、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。 2023年2月24日就任後の当事業年度開催の監査等委員会10回中10回に出席し、内部統制等について適宜、必要な発言を行っております。

5. 会計監査人の状況

(1) 名称 赤坂有限責任監査法人

(2) 報酬等の額

	報酬等の額
・当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額	28,000千円
・当社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	28,000千円

(注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約におきまして、「会社法」に基づく監査と「金融商品取引法」に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額には合計額を記載しております。

2. 監査等委員会は、会計監査人の監査内容、会計監査の職務遂行状況および報酬見積りの算出根拠等が適切であるかどうかについて、必要な検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等の額について同意の判断をいたしました。

(3) 非監査業務の内容

該当事項はありません。

(4) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

当社は、会計監査人の職務を適切に遂行することが困難と認められる場合等、会計監査人の解任または不再任が妥当であると監査等委員会が判断した場合には、会計監査人の解任または不再任について、株主総会に議案として提出いたします。

また、会計監査人が会社法第340条第1項に定められている解任事由に該当すると認められる場合には、監査等委員会は会計監査人を解任いたします。

(5) 責任限定契約の内容の概要

該当事項はありません。

6. 業務の適正を確保するための体制

当社は、業務の有効性・効率性、財務報告の信頼性、法令等の遵守、資産の保全の4つの目的を達成するために、「内部統制システムの基本方針」を定め、内部統制システムの整備・運用を推進し、リスクマネジメントを行っております。

また、代表取締役を最高責任者としたリスク管理委員会を設置し、内部統制システムの整備・運用を推進しております。

(1) 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ①取締役および執行役員は、当社および子会社（以下「当社グループ」という。）が共有すべきルールや考え方を表したバイク王&カンパニーグループ企業行動憲章、行動指針およびコンプライアンス規程を制定し、当社グループの取締役、執行役員および従業員は法令・定款および当社グループの規程・規則等ならびに社会規範を遵守して事業活動を行う。またリスク管理委員会およびコンプライアンス担当部門により、当社グループのコンプライアンスを推進する。
- ②取締役は、取締役会の決定に基づき、各取締役の業務分担に応じた業務を執行し、その状況を取締役に報告する。
- ③取締役会および代表取締役の諮問機関として、諮問委員会を設置し、取締役等の選解任および報酬体系ならびにコーポレートガバナンスについて諮問することで、意思決定プロセスの公正性、客観性、透明性を高める。
- ④会社情報開示については、リスク管理委員会において、情報開示の基本方針、開示手順等を定め、情報の適正性・適時性および公正性を確保する。
- ⑤内部監査部門として内部監査室を設け、業務監査、個人情報監査、内部統制の整備・運用状況の有効性評価等を実施し、ガバナンスの強化に向けた取り組みを支援する。
- ⑥当社グループの事業に適用される法令等を識別し、法的要求事項を遵守する基盤を整備するとともに、随時、教育や啓発を行う。
- ⑦コンプライアンスに関する相談窓口として、内部通報制度を設ける。内部通報制度の情報受領者は、社内のコンプライアンスホットライン部会、第三者機関である弁護士および通報制度受付窓口の専門会社とし、従業員等からの通報により組織的または個人に関わる法令に違反するおそれのある事由等の未然防止に取り組む。なお、通報窓口にご相談したことを理由として、通報者に対して不利益となる取り扱いを行わない。
- ⑧監査等委員会は、株主の負託を受けた独立の機関として取締役の職務の執行を監査することにより、企業の健全で持続的な成長を確保し、社会的信頼に応える良質な企業統治体制を確立する。

(2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制整備

取締役および執行役員の職務の執行に係る情報については、文書管理規程に基づき保存媒体に応じて適切かつ確実に検索性の高い状態で保存、管理することとし、定められた保存期限内は閲覧可能な状態を維持することとする。

(3) 損失の危険の管理に関する規定その他の体制

- ①損失の危険の管理については、リスク管理規程を定め、リスク管理委員会がグループ横断的に事業リスク、戦略リスク、オペレーショナルリスク等のリスクマネジメントを行い、発生 of 未然防止・低減に努める。また取締役または各部署の業務責任者が業務上のリスクマネジメントを行い、発生 of 未然防止・低減に努める。
- ②重大なリスクが発生した場合は、緊急対策本部を設置し損害の拡大防止、被害の最小化を図る。

(4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ①取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制として、取締役会を月1回定時に開催するほか、必要に応じて適宜臨時に開催するものとし、取締役会規程および取締役会付議事項を定め、取締役会が決定すべき事項を明確にする。
- ②当社グループの経営方針および経営戦略に関わる重要事項については事前に当社取締役執行役員および執行役員によって構成される執行役員会において審議し、その審議を経て取締役会に上程する。
- ③取締役会は、中期経営計画および年度経営計画を策定する。当該計画に沿って業務を遂行し、定期的に遂行状況をレビューする。
- ④取締役会の決定に基づく業務執行については、組織規程、業務分掌規程において、それぞれの責任者およびその責任、執行手続きの詳細について定める。

(5) 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- ①子会社の経営の自主性を尊重しつつ、グループ経営の適正化および効率化に資するため、バイク王&カンパニーグループ企業行動憲章、行動指針およびコンプライアンス規程および内部通報制度を遵守し、当社グループの業務の適正を確保する体制を整備する。
- ②当社内に主管部門を定め、子会社の経営のモニタリングを行いガバナンスの強化を図るとともに、子会社管理規程を制定し当社に報告すべき事項を定め、子会社の事業運営に関する重要事項について報告を受け、協議を行う体制を整備する。
- ③内部監査室は子会社について経営方針、諸規程、業務マニュアル等に準拠した業務が行われているかを監査する。

④取締役は当社グループにおいて法令違反その他コンプライアンスに関する重要な事実を発見した場合は、監査等委員会に報告する。また、監査等委員である取締役は当社の監査等委員でない取締役に対し意見を述べるとともに、改善策を求めることができる。

(6) 監査等委員会の職務を補助すべき使用人に関する体制と当該使用人の監査等委員でない取締役からの独立性に関する事項

監査等委員会が職務を補助すべき使用人を求めた場合は、監査等委員会の職務を補助すべき使用人として、当社の使用人から専属の監査等委員会補助者を任命することとする。監査等委員会補助者の評価は監査等委員会が行い、任命、解任、人事異動、賃金等の改定については監査等委員会の同意を得た上で取締役会が決定することとし、取締役からの独立性を確保する。

(7) 監査等委員でない取締役および使用人が監査等委員会に報告するための体制その他の監査等委員会への報告に関する体制および監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制

①当社グループの取締役、執行役員および使用人は、法定の事項に加え、当社およびグループ各社に重大な影響を及ぼすおそれのある事項、内部監査の実施状況、不正行為や重要な法令違反ならびに定款違反行為、内部者通報制度による通報状況等、その他重要な事項等を速やかに監査等委員会に報告することとする。また、当社は当該報告をした者に対し不利な取り扱いを行わないこととする。

②監査等委員である取締役は、取締役会等の重要な会議に出席するとともに、監査等委員会は、あらかじめ定められた監査等委員を通じて、主要な稟議書、その他業務執行に関する重要な文書を閲覧し、必要に応じて監査等委員でない取締役、執行役員または使用人にその説明を求めることができる。

③監査等委員である取締役は、内部監査室および会計監査人と情報交換に努め、連携して当社およびグループ各社の監査の実効性を確保する。また、監査等委員会は、内部監査室に対して指示を行うことができるものとし、その指示を優先させるものとする。

④当社は、監査等委員である取締役がその職務の執行について生ずる費用の前払いまたは償還等の請求をしたときは、当該請求にかかる費用が監査等委員である取締役の職務の執行に必要なないと認められる場合を除き、速やかに対応する。

⑤監査等委員会は、月1回定時に監査等委員会を開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、監査実施状況等について情報交換および協議を行うとともに、会計監査人から定期的に会計監査に関する報告を受け、意見交換を行うこととする。

7. 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

内部統制システムの運用状況については、「内部統制システムの基本方針」に基づき、四半期毎に内部統制システムの運用上見出された問題点等の是正・改善状況ならびに必要に応じて講じられた再発防止策への取り組み状況を取締役会で確認することにより、適切な内部統制システムの構築・運用に努めております。またコンプライアンスについては、社員の入社時ならびに職位に応じた研修を適宜実施し、コンプライアンス意識の浸透を図っております。

8. 会社の支配に関する基本方針

当社は、会社の財産および事業の方針の決定を支配する者のあり方に関する基本方針は、特に定めておりません。

9. コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、株主をはじめとする各ステークホルダーの信頼に応える経営を実現するため、各ステークホルダーの権利を尊重し、経営の公正性および透明性を確保するとともに、説明責任を十分に果たしてまいります。また、持続的な成長と中長期的な企業価値向上に資する迅速・果断な意思決定が遂行できるコーポレートガバナンス体制を構築いたします。

なお、当社のコーポレートガバナンスに関する基本的な枠組みや考え方をまとめ「バイク王&カンパニー・コーポレートガバナンス基本方針」として制定しております。

(1) 取締役の指名に関する方針

取締役の指名については、取締役規程で定めた当社取締役としての資格要件、経営に係る技能・知識に加え、人格等の適性を総合的に鑑み、各取締役が取締役候補者を推薦し、取締役会にて協議して候補者を決定いたします。

なお、公正かつ透明性の高い取締役候補者の指名となるよう諮問委員会を設置し、代表取締役の諮問を受けて取締役候補者の指名について協議いたします。

取締役の選任については、構成員の半数以上を社外取締役とする諮問委員会において審議・答申し、客観性・透明性のあるプロセスを経ることとしております。

また、代表取締役および取締役の解任については、それぞれ適宜諮問委員会で解任に関する協議を行い、取締役会へ答申することとしております。

(2) ガバナンスの充実を図る任意の仕組みの活用状況に関する事項

当社は、コーポレートガバナンスの充実を図るため、取締役会および代表取締役の諮問機関として、任意の諮問委員会を設置しております。諮問委員会は、3名以上で構成し、その半数以上は社外取締役としております。

諮問委員会は、①取締役の選任に関する事項、②取締役の報酬に関する事項、③その他取締役会および代表取締役より諮問された事項について協議し、助言・提言を行っております。当事業年度においては、諮問委員会は9回開催しており、その協議事項は、上記①および②に加え、③として取締役会の実効性評価およびサステナビリティを巡る課題について協議し、その結果を取締役会および代表取締役へ答申しております。

~~~~~  
(注)本事業報告に記載しております数値は、金額については表示単位未満の端数を切り捨て、その他は四捨五入により表示しております。

# 貸借対照表

(2023年11月30日現在)

(単位：千円)

| 資 産 の 部                |                   | 負 債 の 部                |                   |
|------------------------|-------------------|------------------------|-------------------|
| 科 目                    | 金 額               | 科 目                    | 金 額               |
| <b>流 動 資 産</b>         | <b>8,234,130</b>  | <b>流 動 負 債</b>         | <b>4,610,831</b>  |
| 現金及び預金                 | 1,987,184         | 買掛金                    | 237,150           |
| 売掛金                    | 165,070           | 短期借入金                  | 2,200,000         |
| 商貯蔵品                   | 5,321,402         | 1年内返済予定の長期借入金          | 521,612           |
| 前払費用                   | 11,547            | リース債務                  | 78,776            |
| 未払費用                   | 16,641            | 未払費用                   | 677,335           |
| 未収入金                   | 151,533           | 前受り金                   | 218,734           |
| 未収還付法人税等               | 37,113            | 前受り金                   | 588,760           |
| 未収還付消費税等               | 268,194           | 前受り金                   | 24,980            |
| その他                    | 46,469            | 賞与引当金                  | 5,651             |
| 貸倒引当金                  | 235,495           | 店舗閉鎖損失引当金              | 44,446            |
|                        | △6,521            | 商品保証引当金                | 2,688             |
|                        |                   | 資産除の債                  | 3,544             |
| <b>固 定 資 産</b>         | <b>3,820,679</b>  | そ                      | 6,794             |
| <b>有 形 固 定 資 産</b>     | <b>1,379,713</b>  |                        | 354               |
| 建物                     | 871,224           | <b>固 定 負 債</b>         | <b>1,049,805</b>  |
| 構築物                    | 33,956            | 長期借入金                  | 57,363            |
| 車両運搬具                  | 48,812            | リース債務                  | 283,485           |
| 工具、器具及び備品              | 83,876            | 株式給付信託引当金              | 272,646           |
| リース資産                  | 325,343           | 資産除去債務                 | 384,780           |
| 建設仮勘定                  | 16,500            | その他                    | 51,529            |
| <b>無 形 固 定 資 産</b>     | <b>588,414</b>    | <b>負 債 合 計</b>         | <b>5,660,637</b>  |
| 商標                     | 679               | <b>純 資 産 の 部</b>       |                   |
| ソフトウェア                 | 559,238           | 株主資本                   | 6,394,032         |
| 電話加入権                  | 7,631             | 資本                     | 590,254           |
| ソフトウェア仮勘定              | 20,865            | 資本剰余金                  | 1,100,229         |
| <b>投 資 そ の 他 の 資 産</b> | <b>1,852,551</b>  | 資本準備金                  | 609,877           |
| 投資有価証券                 | 481               | その他資本剰余金               | 490,351           |
| 関係会社株式                 | 854,522           | 利益剰余金                  | 5,549,651         |
| 出資                     | 290               | 利益準備金                  | 13,250            |
| 長期貸付金                  | 2,000             | その他利益剰余金               | 5,536,401         |
| 従業員に対する長期貸付金           | 10,790            | 別途積立金                  | 1,230,000         |
| 関係会社長期貸付金              | 141,500           | 繰越利益剰余金                | 4,306,401         |
| 長期前払費用                 | 23,819            | 自己株式                   | △846,103          |
| 敷金及び保証金                | 608,451           | 評価・換算差額等               | 140               |
| 繰延税金資産                 | 250,787           | その他有価証券評価差額金           | 140               |
| その他                    | 57,151            | <b>純 資 産 合 計</b>       | <b>6,394,172</b>  |
| 貸倒引当金                  | △81,363           | <b>負 債 ・ 純 資 産 合 計</b> | <b>12,054,809</b> |
| 関係会社投資損失引当金            | △15,878           |                        |                   |
| <b>資 産 合 計</b>         | <b>12,054,809</b> |                        |                   |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

# 損益計算書

(2022年12月1日から  
2023年11月30日まで)

(単位：千円)

| 科 目          | 金 額        |
|--------------|------------|
| 売上高          | 33,068,034 |
| 商品期首棚卸高      | 5,834,308  |
| 当期商品仕入高      | 18,732,973 |
| 商品保証引当金繰入額   | △367       |
| 商品期末棚卸高      | 24,566,913 |
| 商品売上原価       | 5,321,402  |
| 流通整備原価       | 19,245,511 |
|              | 1,622,670  |
| 売上総利益        | 20,868,182 |
| 販売費及び一般管理費   | 12,199,852 |
| 営業損失         | 12,365,934 |
| 営業外収益        | 166,081    |
| 受取利息及び配当金    | 91,987     |
| クレジット手数料収入   | 154,648    |
| 受取賃貸料        | 12,088     |
| 為替差益         | 810        |
| その他          | 68,447     |
| 営業外費用        | 327,982    |
| 支払利息         | 10,562     |
| その他          | 950        |
| 経常利益         | 11,512     |
| 特別利益         | 150,387    |
| 固定資産売却益      | 1,548      |
| 貸倒引当金戻入益     | 1,596      |
| 関係会社株式売却益    | 14,875     |
| 特別損失         | 18,019     |
| 固定資産除却損      | 2,944      |
| 減損           | 45,603     |
| 貸倒引当金繰入額     | 81,363     |
| 関係会社株式評価損    | 90,000     |
| 税引前当期純損失     | 219,911    |
| 法人税、住民税及び事業税 | 64,567     |
| 法人税等調整額      | △5,310     |
| 当期純損失        | 51,503     |
|              | 59,256     |
|              | 110,760    |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。



# 株主資本等変動計算書

(2022年12月1日から  
2023年11月30日まで)

(単位：千円)

|                         | 株主資本    |         |          |           |        |           |           |           |
|-------------------------|---------|---------|----------|-----------|--------|-----------|-----------|-----------|
|                         | 資本金     | 資本剰余金   |          |           | 利益剰余金  |           |           |           |
|                         |         | 資本準備金   | その他資本剰余金 | 資本剰余金合計   | 利益準備金  | その他利益剰余金  |           | 利益剰余金合計   |
|                         |         |         |          |           | 別途積立金  | 繰越利益剰余金   |           |           |
| 当期首残高                   | 590,254 | 609,877 | 490,351  | 1,100,229 | 13,250 | 1,230,000 | 4,838,230 | 6,081,480 |
| 当期変動額                   |         |         |          |           |        |           |           |           |
| 剰余金の配当                  |         |         |          |           |        |           | △421,068  | △421,068  |
| 当期純損失(△)                |         |         |          |           |        |           | △110,760  | △110,760  |
| 自己株式の取得                 |         |         |          |           |        |           |           |           |
| 自己株式の処分                 |         |         |          |           |        |           |           |           |
| 株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額) |         |         |          |           |        |           |           |           |
| 当期変動額合計                 | —       | —       | —        | —         | —      | —         | △531,829  | △531,829  |
| 当期末残高                   | 590,254 | 609,877 | 490,351  | 1,100,229 | 13,250 | 1,230,000 | 4,306,401 | 5,549,651 |

|                         | 株主資本     |           | 評価・換算差額等     |            | 純資産合計     |
|-------------------------|----------|-----------|--------------|------------|-----------|
|                         | 自己株式     | 株主資本合計    | その他有価証券評価差額金 | 評価・換算差額等合計 |           |
| 当期首残高                   | △846,678 | 6,925,286 | 229          | 229        | 6,925,516 |
| 当期変動額                   |          |           |              |            |           |
| 剰余金の配当                  |          | △421,068  |              |            | △421,068  |
| 当期純損失(△)                |          | △110,760  |              |            | △110,760  |
| 自己株式の取得                 |          |           |              |            |           |
| 自己株式の処分                 | 574      | 574       |              |            | 574       |
| 株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額) |          |           | △88          | △88        | △88       |
| 当期変動額合計                 | 574      | △531,254  | △88          | △88        | △531,343  |
| 当期末残高                   | △846,103 | 6,394,032 | 140          | 140        | 6,394,172 |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 個別注記表

### 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

##### ① 関係会社株式

移動平均法による原価法によっております。

##### ② その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）によっております。

#### (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品および貯蔵品については、主として個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっております。

#### (3) 固定資産の減価償却の方法

##### ① 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物(附属設備) 3～24年

構築物 10～15年

車両運搬具 2～5年

工具、器具及び備品 3～20年

##### ② 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

##### ③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

#### (4) 引当金の計上基準

##### ① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

② 関係会社投資損失引当金

関係会社株式の実質価額低下に伴う損失に備えるため、健全性の観点から、財政状態を勘案して実質価額の低下に相当する額について引当金を計上しております。

③ 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち、当事業年度負担額を計上しております。

④ 店舗閉鎖損失引当金

将来の閉鎖が見込まれる店舗等について、今後発生する閉鎖に伴う損失に備えるため、合理的に見込まれる発生見込額を計上しております。

⑤ 商品保証引当金

当社が販売した商品のアフターサービスに対する費用支出に備えるため、過去の実績に基づき発生見込額を計上しております。

⑥ 株式給付信託引当金

株式給付規程に基づく役員並びに従業員への当社株式の給付に備えるため、当事業年度末における株式給付債務の見込額に基づき発生見込額を計上しております。

(5) 収益及び費用の計上基準

収益は顧客との契約に係る取引価格で計上しており、収益の額に変動対価は含まれておりません。変動対価等を含む収益の額に重要性はありません。

① ホールセール

主に法人ユーザーに対して車輛の販売を行っており、オークション規定に基づいて顧客との契約が成立し、車輛を引き渡す履行義務を負っております。車輛の販売については、顧客が当該車輛に対する支配を獲得したと認められる時点で履行義務が充足されると判断しており、具体的には、顧客が車輛を落札した時点で収益を認識しております。

② リテール（車輛）

主に一般ユーザーに対して車輛の販売を行っており、顧客との販売契約に基づいて車輛を引き渡す履行義務を負っております。

車輛の販売については、顧客が当該車輛に対する支配を獲得したと認められる時点で履行義務が充足されると判断しており、具体的には、顧客に引き渡された時点で収益を認識しております。

なお、外部配送業者へ車輛の引き渡しを委託した場合は、収益認識会計基準適用指針第98項に定める代替的な取扱いを適用し、出荷時に収益を認識しております。

## 2. 会計方針の変更に関する注記

時価の算定に関する会計基準等の適用

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、計算書類に与える影響はありません。

## 3. 会計上の見積りに関する注記

固定資産の減損損失

(1) 当事業年度の計算書類に計上した金額

店舗における 有形固定資産 814,057千円  
減損損失 45,603千円

| 用 途   | 場 所                 | 種 類       | 減 損 損 失<br>(千円) |
|-------|---------------------|-----------|-----------------|
| 事業用資産 | バイク王秦野店他<br>(12事業所) | 建 物       | 44,818          |
|       |                     | 構 築 物     | 340             |
|       |                     | 工具、器具及び備品 | 444             |

(2) 計算書類利用者の理解に資するその他の情報

① 当事業年度の計算書類に計上した金額の算出方法

当社は、キャッシュ・フローを生み出す最小単位に基づき資産の用途により、事業用資産については主に独立した会計単位である事業所単位で、資産のグルーピングを行っております。

事業用資産は、営業活動から生ずるキャッシュ・フローが継続してマイナスとなっている、今後の改善が困難と見込まれる事業所等について、資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該資産の回収可能価額は使用価値を零として測定しております。

② 当年度の計算書類に計上した金額の算出に用いた主要な仮定

店舗の出店形態(専門店、複合店)に関わらず全ての店舗を減損兆候判定の対象としております。将来キャッシュ・フローの算定に用いた主要な仮定は各店舗の事業計画の基礎となるバイクの仕入台数、販売台数、売上単価、仕入単価等の市場に影響される指標、広告宣伝費、人件費等の予測を考慮した営業利益であります。

### ③ 翌年度の計算書類に与える影響

将来キャッシュ・フローの算定にあたっては、決算時点で入手可能な情報等に基づき合理的に判断しておりますが、経営環境の変化等により今後著しく収益性が低下し、見積りが大きく相違した場合、翌年度の計算書類に影響を及ぼす可能性があります。

## 4. 会計上の見積りの変更に関する注記

### (固定資産の耐用年数の変更)

当社は、2023年8月に本社オフィスを移転いたしました。

これに伴い、従来の本社オフィスの原状回復費用及び使用見込期間に関して見積りの変更を行い、また、移転後利用見込みのない固定資産については、解約日までの期間で減価償却が完了するよう将来にわたり耐用年数を変更しております。

これらの見積りの変更により、従来の方法に比べて、当事業年度の営業損失及び税引前当期純損失はそれぞれ増加、経常利益は15,814千円減少しております。

### (資産除去債務の見積りの変更)

当事業年度において、本社オフィスを移転したことに伴い、従来の本社オフィスの不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務として計上していた資産除去債務について新たな情報を入手したため、見積りの変更を行いました。

また、バイク事業における店舗等の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務として計上していた資産除去債務について、店舗の退去時に必要とされる原状回復費用に関する新たな情報を入手したことに伴い、見積りの変更を行いました。これら見積りの変更による増加額44,727千円を変更前の資産除去債務残高に加算しております。

## 5. 追加情報

### (役員向け株式給付信託)

当社は、当社の取締役（監査等委員である取締役および社外取締役を除きます。）、執行役員および監査等委員である取締役（以下、あわせて「取締役等」といいます。）を対象に、当社株式および当社株式の時価相当額の金銭（以下、「当社株式等」といいます。）の給付を行う株式報酬制度（以下、「本制度」といいます。）を導入しております。

#### (1) 取引の概要

本制度は、取締役等の報酬として、当社が金銭を拠出することにより設定する信託（以下、「本信託」といいます。）が当社株式を取得し、当社が定める株式給付規程に基づいて、各取締役等に付与するポイントの数に相当する数の当社株式等を、本信託を通じて、各取締役等に給付する株式報酬制度です。

## (2) 信託に残存する自社の株式

本信託に残存する当社株式を、本信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く。）により純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前事業年度末119,576千円、104,070株、当事業年度末119,001千円、103,570株であります。

## (従業員向け株式給付信託の内容)

当社は、当社及び当社グループ会社（以下、「当社等」といいます。）の従業員（以下、あわせて「当社等の従業員」といいます。）を対象としたインセンティブ・プランの一環として、当社株式および当社株式の時価相当額の金銭（以下、「当社株式等」といいます。）の給付を行う株式報酬制度（以下、「本制度」といいます。）を導入しております。

## (1) 取引の概要

本制度は、当社が金銭を拠出することにより設定する信託（以下、「本信託」といいます。）が当社株式を取得し、当社が定める株式給付規程に基づいて、一定の受益者要件を満たした当社等の従業員に付与するポイントの数に相当する数の当社株式等を、本信託を通じて、当社等の従業員に給付する株式報酬制度です。

## (2) 信託に残存する自社の株式

本信託に残存する当社株式を、本信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く。）により純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前事業年度末517,050千円、450,000株、当事業年度末517,050千円、450,000株であります。

## 6. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 2,069,258千円

### (2) 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

|                |           |
|----------------|-----------|
| 関係会社に対する短期金銭債権 | 237,283千円 |
| 関係会社に対する短期金銭債務 | 9,881千円   |
| 関係会社に対する長期金銭債権 | 141,500千円 |

### (3) 当座貸越及びコミットメントライン契約

当社は不測の事態・リスクに備えた安定的な運転資金を確保するため、また、当社事業のさらなる拡大のための成長資金および設備投資資金を機動的かつ安定的に調達するため、取引銀行3行と当座貸越契約およびコミットメントライン契

約を締結しております。

当事業年度末における当該契約に係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

|                        |             |
|------------------------|-------------|
| 当座貸越極度額及びコミットメントラインの総額 | 6,200,000千円 |
| 借入実行残高                 | 2,599,141千円 |
| 差引額                    | 3,600,859千円 |

## 7. 損益計算書に関する注記

### (1) 関係会社との取引高

営業取引による取引高

|            |              |
|------------|--------------|
| 売上高        | 13,795,574千円 |
| 仕入高        | 145,057千円    |
| 販売費及び一般管理費 | 234,124千円    |

営業取引以外の取引による取引高 116,783千円

※当事業年度において関係会社株式会社バイク王ダイレクトについて、関係会社株式評価損10,000千円および関係会社株式会社ライフ&カンパニーについて、関係会社株式評価損80,000千円を計上しております。

## 8. 株主資本等変動計算書に関する注記

### (1) 当事業年度の末日における発行済株式の種類及び数

普通株式 15,315,600株

### (2) 当事業年度の末日における自己株式の種類及び数

普通株式 1,349,572株

なお、当事業年度末の自己株式数には、信託が保有する自社の株式が553,570株含まれております。

### (3) 当事業年度中に行った剰余金の配当に関する事項

#### ① 配当金支払額等

| 決議                           | 株式の種類 | 配当の原資 | 配当金の総額<br>(千円) | 1株当たり<br>配当額(円) | 基準日             | 効力発生日          |
|------------------------------|-------|-------|----------------|-----------------|-----------------|----------------|
| 2023年<br>2月24日<br>定時株主<br>総会 | 普通株式  | 利益剰余金 | 203,274        | 14.00           | 2022年<br>11月30日 | 2023年<br>2月27日 |

(注) 2023年2月24日開催の定時株主総会決議による配当金の総額には、特別配当4円を含んでおります。また、役員向け株式給付信託および従業員向け株式給付信託が保有する自社の株式に対する配当金が7,756千円含まれております。

② 中間配当金支払額等

| 決 議                   | 株式の種類 | 配当の原資 | 配当金の総額<br>(千円) | 1株当たり<br>配当額(円) | 基準日            | 効力発生日         |
|-----------------------|-------|-------|----------------|-----------------|----------------|---------------|
| 2023年<br>7月4日<br>取締役会 | 普通株式  | 利益剰余金 | 217,793        | 15.00           | 2023年<br>5月31日 | 2023年<br>8月1日 |

(注) 2023年7月4日取締役会決議による配当金の総額には、役員向け株式給付信託および従業員向け株式給付信託が保有する自社の株式に対する配当金が8,303千円含まれております。

(4) 当事業年度の末日後に行う剰余金の配当に関する事項

2024年2月27日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案する予定であります。

| 決 議 予 定                       | 株式の種類 | 配当の原資 | 配当金の総額<br>(千円) | 1株当たり<br>配当額(円) | 基準日             | 効力発生日          |
|-------------------------------|-------|-------|----------------|-----------------|-----------------|----------------|
| 2024年<br>2月27日<br>定時株主<br>総 会 | 普通株式  | 利益剰余金 | 217,793        | 15.00           | 2023年<br>11月30日 | 2024年<br>2月28日 |

(注) 2024年2月27日開催の定時株主総会決議による配当金の総額には、役員向け株式給付信託および従業員向け株式給付信託が保有する自社の株式に対する配当金が8,303千円含まれております。



## 9. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

|               |          |
|---------------|----------|
| 棚卸資産評価損       | 33,597千円 |
| 未払事業税         | △5,487   |
| 未払事業所税        | 2,939    |
| 賞与引当金         | 13,609   |
| 株式給付信託引当金     | 83,484   |
| 店舗閉鎖損失引当金     | 823      |
| 貸倒引当金         | 26,910   |
| 関係会社投資損失引当金   | 4,862    |
| 関係会社株式評価損     | 37,305   |
| 減価償却超過額       | 78,907   |
| 繰延資産償却超過額     | 2,833    |
| 減損損失          | 32,011   |
| 資産除去債務        | 119,900  |
| 税務上の繰越欠損金(注)2 | 53,476   |
| その他           | 38,784   |
| 繰延税金資産 小計     | 523,958  |
| 評価性引当額(注)1    | △205,672 |
| 繰延税金資産 合計     | 318,285  |

(繰延税金負債)

|              |           |
|--------------|-----------|
| 有形固定資産       | △67,435千円 |
| その他有価証券評価差額金 | △62       |
| 繰延税金負債 合計    | △67,497   |
| 繰延税金資産の純額    | 250,787   |

(注) 1. 評価性引当額が82,559千円増加しております。

この増加は、主に店舗の新規出店に伴う資産除去債務の増加および関係会社株式評価損の計上によるものであります。

## 2. 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

|                  | 1年以内<br>(千円) | 1年超<br>2年以内<br>(千円) | 2年超<br>3年以内<br>(千円) | 3年超<br>4年以内<br>(千円) | 4年超<br>5年以内<br>(千円) | 5年超<br>(千円) | 合計<br>(千円) |
|------------------|--------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|-------------|------------|
| 税務上の繰越欠損金<br>(a) | —            | —                   | —                   | —                   | —                   | 53,476      | 53,476     |
| 評価性引当額           | —            | —                   | —                   | —                   | —                   | —           | —          |
| 繰延税金資産(b)        | —            | —                   | —                   | —                   | —                   | 53,476      | 53,476     |

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(b) 税務上の繰越欠損金53,476千円(法定実効税率を乗じた額)について、繰延税金資産53,476千円を計上しております。当該繰延税金資産を計上した税務上の繰越欠損金は、2023年12月の完全子会社の吸収合併により生じたものであり、将来の課税所得の見込みにより、回収可能と判断し評価性引当額を認識しておりません。

(2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった  
 主要な項目別の内訳

|                      |         |
|----------------------|---------|
| 法定実効税率               | △30.6%  |
| (調整)                 |         |
| 住民税均等割               | 121.8%  |
| 交際費等永久に損金に算入されない項目   | 0.8%    |
| 受取配当金等永久に益金に算入されない項目 | △33.6%  |
| 評価性引当額の増加            | 160.3%  |
| 繰越欠損金                | △103.8% |
| その他                  | 0.2%    |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率    | 115.1%  |

(注) 当事業年度におきましては、税引前当期純損失を計上しているため、法定実効税率をマイナス表示し調整を行っております。

(3) 法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理

当社は、当事業年度から、グループ通算制度を適用しております。また、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日)に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

## 10. リースにより使用する固定資産に関する注記

### オペレーティング・リース

(借主側)

未経過リース料

|       |           |
|-------|-----------|
| 1 年 内 | 120,760千円 |
| 1 年 超 | 534,336千円 |
| 合 計   | 655,096千円 |

(貸主側)

未経過リース料

|       |          |
|-------|----------|
| 1 年 内 | 11,613千円 |
| 1 年 超 | 85,166千円 |
| 合 計   | 96,780千円 |

## 11. 金融商品に関する注記

### (1) 金融商品の状況に関する事項

#### ① 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については預金等の安全性の高い金融資産で行い、また、資金調達については銀行借入により調達する方針であります。

#### ② 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金および未収入金は、主にオークション売上および国内の取引先にかかるものであり、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、業務上の関係を有する上場企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

関係会社株式は、業務上の関係を有する非上場企業の株式であり、企業価値の変動リスクに晒されております。

出資金は、出資先の信用リスクに晒されております。

長期貸付金は、貸付先の信用リスクに晒されております。

関係会社長期貸付金は、当社が関係会社に対し行っているものであり、貸付先の信用リスクに晒されております。

敷金及び保証金は、本社や店舗の賃貸借契約にともなうものであり、差入先の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金、未払金、未払費用および預り金は、その全てが1年以内の支払期日であります。

短期借入金は、主に営業取引にかかる資金調達であります。

長期借入金は、設備投資にかかる資金調達であります。

ファイナンス・リース取引にかかるリース債務は、主に設備投資に必要な資金調達を目的としたものであります。

### ③ 金融商品に係るリスク管理体制

#### (イ)信用リスクの管理

当社は、「与信管理規程」に従い、取引先ごとの期日管理および残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を一定期間ごとに把握し、財務状況等の悪化による回収懸念の早期把握や軽減を図る体制を構築しております。

#### (ロ)市場リスクの管理

投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握し、市況や発行体との関係を勘案して保有状況を継続的に見直す体制としております。

#### (ハ)資金調達に係る流動性リスクの管理

当社は、各部署からの報告に基づき財務担当部門が適時に資金繰計画を作成・更新し担当取締役へ報告することで、流動性リスクを管理しております。

### ④ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

## (2) 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、市場価格のない株式等は、次表に含めておりません。((注)1.を参照ください。)また、「現金及び預金」、「売掛金」、「未収入金」、「未収還付法人税等」、「未収還付消費税等」、「買掛金」、「短期借入金」、「未払金」、「未払費用」、「預り金」は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

|               | 貸借対照表計上額<br>(千円) | 時 価<br>(千円) | 差 額<br>(千円) |
|---------------|------------------|-------------|-------------|
| (1) 投資有価証券    | 481              | 481         | —           |
| (2) 長期貸付金     | 2,000            | 1,985       | △14         |
| (3) 関係会社長期貸付金 | 184,000          |             |             |
| 貸倒引当金(*)      | △81,363          |             |             |
|               | 102,636          | 102,636     | —           |
| (4) 敷金及び保証金   | 608,451          | 588,709     | △19,741     |
| 資産計           | 713,569          | 693,813     | △19,756     |
| (1) 長期借入金     | 578,975          | 578,323     | △651        |
| (2) リース債務     | 362,262          | 357,542     | △4,720      |
| 負債計           | 941,237          | 935,866     | △5,371      |

(\*) 関係会社長期貸付金に対して計上している貸倒引当金を控除しております。

(注) 1. 市場価格のない株式等

| 区分             | 貸借対照表計上額 (千円) |
|----------------|---------------|
| 関係会社株式 (非上場株式) | 854,522       |
| 出資金            | 290           |

2. 金銭債権の決算日後の償還予定額

|              | 1年以内<br>(千円) | 1年超5年以内<br>(千円) | 5年超10年以内<br>(千円) | 10年超<br>(千円) |
|--------------|--------------|-----------------|------------------|--------------|
| 現金及び預金       | 1,987,184    | —               | —                | —            |
| 売掛金          | 165,070      | —               | —                | —            |
| 未収入金         | 37,113       | —               | —                | —            |
| 未収還付法人税等     | 268,194      | —               | —                | —            |
| 未収還付消費税等     | 46,469       | —               | —                | —            |
| 長期貸付金        | —            | 2,000           | —                | —            |
| 関係会社長期貸付金(*) | 184,000      | —               | —                | —            |
| 敷金及び保証金      | 85,340       | 103,690         | 387,092          | 32,328       |
| 合計           | 2,773,372    | 105,690         | 387,092          | 32,328       |

(\*) 関係会社長期貸付金は、株式会社バイク王ダイレクト及び株式会社ライフ&カンパニーに対するものであり、同2社は2023年12月1日付で合併することより償還予定額は1年以内としております。

3. 長期借入金、リース債務の決算日後の返済予定額

|       | 1年以内<br>(千円) | 1年超<br>2年以内<br>(千円) | 2年超<br>3年以内<br>(千円) | 3年超<br>4年以内<br>(千円) | 4年超<br>5年以内<br>(千円) | 5年超<br>(千円) |
|-------|--------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|-------------|
| 長期借入金 | 521,612      | 50,027              | 5,484               | 1,852               | —                   | —           |
| リース債務 | 78,776       | 69,756              | 65,674              | 63,786              | 46,841              | 37,426      |
| 合計    | 600,388      | 119,783             | 71,158              | 65,638              | 46,841              | 37,426      |

(3) 金融商品の時価の適切な区分ごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

①時価で貸借対照表に計上している金融商品

|        | 時価(千円) |      |      |     |
|--------|--------|------|------|-----|
|        | レベル1   | レベル2 | レベル3 | 合計  |
| 投資有価証券 | 481    | —    | —    | 481 |
| 資産計    | 481    | —    | —    | 481 |

②時価で貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

|           | 時価(千円) |         |         |         |
|-----------|--------|---------|---------|---------|
|           | レベル1   | レベル2    | レベル3    | 合計      |
| 長期貸付金     | —      | 1,985   | —       | 1,985   |
| 関係会社長期貸付金 | —      | —       | 102,636 | 102,636 |
| 敷金及び保証金   | —      | 588,709 | —       | 588,709 |
| 資産計       | —      | 590,695 | 102,636 | 693,332 |
| 長期借入金     | —      | 578,323 | —       | 578,323 |
| リース債務     | —      | 357,542 | —       | 357,542 |
| 負債計       | —      | 935,866 | —       | 935,866 |

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

長期貸付金

長期貸付金の時価は、一定の期間ごとに分類し、その将来キャッシュ・フローと国債の利回り等適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率を基に割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

関係会社長期貸付金

関係会社長期貸付金の時価は、回収見込額に基づいて貸倒引当金を計上して

いるため、時価は貸借対照表価額から貸倒引当金を控除した金額に近似しております。貸付先の財務内容等を勘案し、回収見込額を見積もっていることから、レベル3の時価に分類しております。

#### 敷金及び保証金

敷金及び保証金の時価は、一定の期間ごとに分類し、その将来キャッシュ・フローと国債の利回り等適切な指標に基づく利率を用いて割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

#### 長期借入金およびリース債務

これらの時価は、元利金の合計額を同様の契約において想定される利率で割引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

### 12. 持分法損益等に関する注記

|                    |           |
|--------------------|-----------|
| 関連会社に対する投資の金額      | 220,800千円 |
| 持分法を適用した場合の投資の金額   | 461,987千円 |
| 持分法を適用した場合の投資利益の金額 | 99,165千円  |

### 13. 資産除去債務に関する注記

(1) 資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

#### ① 当該資産除去債務の概要

当社は、バイク事業における店舗等について不動産賃借契約を締結しており、当該不動産賃借契約における賃借期間終了時の原状回復義務に関し資産除去債務を計上しております。

#### ② 当該資産除去債務の金額の算定方法

バイク事業における店舗等については、使用見込期間を1年から22年、割引率は0.00%から1.93%を採用しております。

#### ③ 当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

|                 |           |
|-----------------|-----------|
| 期首残高            | 292,418千円 |
| 有形固定資産の取得に伴う増加額 | 74,798千円  |
| 時の経過による調整額      | 2,077千円   |
| 見積りの変更による増加額    | 44,727千円  |
| 資産除去債務の履行による減少額 | △22,447千円 |
| 当事業年度末残高        | 391,574千円 |

④ 当該資産除去債務の見積りの変更

「4. 会計上の見積りの変更に関する注記（資産除去債務の見積りの変更）」に記載のとおりであります。

- (2) 資産除去債務のうち貸借対照表に計上していないもの  
該当事項はありません。

## 14. 収益認識に関する注記

- (1) 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社は、主にバイク販売及びその附帯事業の単一セグメントであり、顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、以下のとおりであります。

なお、その他の収益は、リース取引に関する会計基準に基づくレンタルバイク売上であります。

(単位：千円)

|                   | 当事業年度      |
|-------------------|------------|
| ホールセール（車輛）        | 18,332,997 |
| リテール（車輛）          | 12,162,620 |
| その他               | 2,446,486  |
| 顧客との契約から生じる収益     | 32,942,103 |
| その他の収益（レンタルバイク売上） | 125,930    |
| 外部顧客への売上高         | 33,068,034 |

- (2) 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

「1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記（5）収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。



(3) 当事業年度及び翌事業年度以降の収益の金額を理解する為の情報

①契約負債の残高等

(単位：千円)

|                     | 当事業年度   |
|---------------------|---------|
| 顧客との契約から生じた債権（期首残高） |         |
| 売掛金                 | 250,122 |
|                     | 250,122 |
| 顧客との契約から生じた債権（期末残高） |         |
| 売掛金                 | 165,070 |
|                     | 165,070 |
| 契約負債（期首残高）          |         |
| 前受金                 | 818,385 |
|                     | 818,385 |
| 契約負債（期末残高）          |         |
| 前受金                 | 588,760 |
|                     | 588,760 |

契約負債は、主にリテールにおいて顧客から受け取った前受金に関するものであります。契約負債は、収益の認識に伴い取り崩されます。

当事業年度に認識された収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は、790,877千円であります。

② 残存履行義務に配分した取引価格

当社では、当初の予想契約期間が1年を超える重要な取引はないため、残存履行義務に係る開示を省略しております。また、顧客との契約から生じる対価の中に、取引価格に含まれていない重要な金額はありません。

## 15. 関連当事者との取引に関する注記

(単位：千円)

| 種類   | 会社等の名称             | 議決権の所有<br>(被所有)割合<br>(%) | 関連当事者<br>との関係 | 取引の内容             | 取引金額<br>(注3) | 科目 | 期末残高 |
|------|--------------------|--------------------------|---------------|-------------------|--------------|----|------|
| 関連会社 | ㈱ジャパンバイク<br>オークション | 所有<br>直接30.0%            | オークション<br>取引  | オークション<br>の売上(注1) | 13,776,469   | —  | —    |
|      |                    |                          |               | 配当金の受取            | 90,031       | —  | —    |
|      |                    |                          |               | 株式の売却(注2)         | 29,875       | —  | —    |

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. オークション売上については、㈱ジャパンバイクオークションのオークション規約により、一般会員と同様の取引条件によっております。
2. ㈱ジャパンバイクオークションへの株式の売却は、当社が保有する同社株式の一部を同社の自己株式取得に応じて譲渡したものであり、その価格条件については、純資産等を基礎として協議の上、決定しております。なお、株式の売却にあたり、関係会社株式売却益14,875千円を計上しております。
3. 取引金額には消費税等を含めておりません。

## 16. 1株当たり情報に関する注記

|            |         |
|------------|---------|
| 1株当たり純資産額  | 457円84銭 |
| 1株当たり当期純損失 | 7円93銭   |

(注) 株主資本において自己株式として計上されている役員向け株式給付信託および従業員向け株式給付信託に残存する自社の株式は、1株当たり純資産の算定および1株当たり当期純損失の算定において、期末発行済株式総数および期中平均株式数から控除する自己株式に含めております。

|               |          |
|---------------|----------|
| 期末の当該自己株式の数   | 553,570株 |
| 期中平均の当該自己株式の数 | 553,689株 |

## 17. 重要な後発事象に関する注記

(完全子会社の吸収合併)

当社は、2023年10月4日開催の取締役会において、当社の完全子会社である株式会社バイク王ダイレクト、株式会社ライフ&カンパニーを吸収合併することを決議し、2023年12月1日付にて吸収合併（以下「本合併」）いたしました。

本合併は、当社においては会社法第796条第2項の規定に基づく簡易吸収合併であり、当事会社2社においては会社法第784条第1項に基づく略式合併であるため、それぞれ株主総会の承認を得ずに行っております。

## 1. 企業結合の概要

### (1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

- |            |                                                  |
|------------|--------------------------------------------------|
| ①結合当事企業の名称 | 株式会社バイク王ダイレクト                                    |
| 事業の内容      | バイクパーツ・用品・モビリティ車両の販売やフランチャイズによるバイクパーツ・用品の買取および販売 |
| ②結合当事企業の名称 | 株式会社ライフ&カンパニー                                    |
| 事業の内容      | フランチャイズによる四輪の買取および販売やブランド品の買取および販売               |

### (2) 企業結合日 2023年12月1日

### (3) 企業結合の法定形式

当社を存続会社とし、株式会社バイク王ダイレクト、株式会社ライフ&カンパニーを消滅会社とする吸収合併です。

### (4) 結合後企業の名称

株式会社バイク王&カンパニー

### (5) 取引の目的を含む取引の概要

当事会社2社が行う各事業を親会社に取り込み直接行うことでオペレーションの合理化や経営資源の最適化によるシナジー効果の創出およびコスト削減を図るとともに、強固かつ効率的な経営管理体制を構築することを目的に、本合併を行うことといたしました。

## 2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 2019年1月16日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日）に基づき、共通支配下の取引として会計処理を実施する予定であります。

独立監査人の監査報告書

2024年1月16日

株式会社バイク王&カンパニー  
取締役会 御中

赤坂有限責任監査法人  
東京都港区

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 池田 勉

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 荒川 和也

監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社バイク王&カンパニーの2022年12月1日から2023年11月30日までの第26期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会への報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

計算書類等に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
  - ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
  - ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
  - ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
  - ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- 監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

## 監査等委員会監査報告

### 監 査 報 告 書

当監査等委員会は、2022年12月1日から2023年11月30日までの第26期事業年度における取締役の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査の方法及びその内容

監査等委員会は、会社法第399条の13第1項第1号ロ及びハに掲げる事項に関する取締役会決議の内容並びに当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明するとともに、下記の方法で監査を実施いたしました。

- ①監査等委員会が定めた監査等委員会監査等基準に準拠し、監査方針、監査計画、職務の分担等に従い、会社の内部監査部門その他の内部統制部門と連携の上、重要な会議に出席し、取締役、執行役員及び内部統制部門等の使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。
- ②会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について監査計画、四半期レビュー結果、期末監査結果等の報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。なお、監査上の主要な検討事項（KAM）については、赤坂有限責任監査法人と協議を行うとともに、その監査の実施状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会の決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人赤坂有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2024年1月19日

株式会社バイク王&カンパニー  
監 査 等 委 員 会

常勤監査等委員 上 沢 徹 二 ㊞

監査等委員 三 上 純 昭 ㊞

監査等委員 森 順 子 ㊞

(注) 監査等委員三上純昭及び森順子は、会社法第2条第15号及び第331条第6項に規定する社外取締役であります。

以 上

# 株主総会参考書類

## 第1号議案 第26期剰余金処分の件

剰余金の処分につきましては、以下のとおりといたしたいと存じます。

### 期末配当に関する事項

当社は、財務体質の強化、継続的な企業価値の向上に努め、将来の事業展開等を勘案のうえ、内部留保および利益配分を決定しております。

内部留保につきましては、従来より進めてまいりました借入金等に大きく依存しない財務基盤を前提に、業務の一層の効率化・売上の増加を図るための新規出店、システム整備および将来の事業強化につながる戦略的投資等、将来の経営効率を高めるための事業基盤強化の原資に充当してまいります。

配当につきましては、安定的な配当を行うことを念頭に置きつつ、業績等を勘案したうえで配当金額を決定してまいります。

第26期の期末配当につきましては、かかる方針を踏まえ、当期の業績その他諸般の事情を勘案いたしまして、以下のとおりとさせていただきます。

- (1) 配当財産の種類  
金銭といたします。
- (2) 株主に対する期末財産の割当に関する事項およびその総額  
当社普通株式1株につき金15円 総額 217,793,970円
- (3) 剰余金の配当が効力を生じる日  
2024年2月28日



**第2号議案** 取締役（監査等委員である取締役を除く。）5名選任の件

本定時株主総会の終結の時をもって取締役（監査等委員である取締役を除く。）5名全員は任期満了により退任となります。つきましては、取締役（監査等委員である取締役を除く。）5名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案につきましては、監査等委員会にて検討がなされましたが、特段の意見はございませんでした。

取締役（監査等委員である取締役を除く。）候補者は次のとおりであります。

| 候補者番号                                                                                                                                | 氏名<br>(生年月日)                        | 略歴、当社における地位、担当<br>および重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 所有する当社の株式数 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1                                                                                                                                    | いしかわ あき ひこ<br>石川 秋彦<br>(1964年9月23日) | 1987年2月 ㈱ナショナルオート入社<br>1994年9月 メジャーオート(有)設立 代表取締役社長<br>1998年9月 当社設立 取締役会長<br>2006年3月 ㈱パーク王 取締役<br>2008年9月 SIAM IK CO.,LTD.設立 取締役社長<br>2011年2月 当社代表取締役会長<br>2011年3月 当社内部監査室・業務サポート室・教育研修室管掌<br>2013年12月 当社マーケティング戦略部門・インフォメーションセンター・第一/第二買取事業部・商品流通事業部管掌<br>2014年2月 当社代表取締役社長<br>2014年12月 当社マーケティング戦略部門・インフォメーションセンター・バイクライフプランニング事業部・駐車場事業部管掌<br>2015年2月 当社代表取締役社長執行役員（現任）<br>2017年12月 当社バイクライフプランニング事業部管掌<br>2018年2月 当社バイクライフプランニング事業部・コーポレート部門・業務サポート室管掌<br>2018年12月 当社バイクライフプランニング事業部・業務サポート室管掌<br>2020年12月 当社バイクライフプランニング事業部管掌<br>2021年2月 当社内部監査室管掌（現任） | 3,922,900株 |
| <取締役候補者とした理由について><br>石川秋彦氏は、加藤義博氏と1998年に当社を設立以来、長年に亘る豊富な経営経験および経営全般に関する知見を有していることから、経営の推進に適任であると判断したため、引き続き取締役候補者として選任をお願いするものであります。 |                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |            |

| 候補者番号                                                                                                                                                                             | 氏名<br>(生年月日)                    | 略歴、当社における地位、担当<br>および重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 所有する当<br>社の株式数 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 2                                                                                                                                                                                 | かとうよしひろ<br>加藤義博<br>(1971年1月31日) | 1991年3月 (株)ナショナルオート入社<br>1997年11月 (有)ケイ設立 代表取締役社長<br>1998年9月 当社設立 代表取締役社長<br>2003年12月 (有)ケイ 取締役<br>2007年6月 (株)アイケイモーターサイクル 代表取締役<br>社長<br>2011年3月 当社企画本部管掌<br>2013年12月 当社内部監査室管掌<br>2014年2月 当社取締役会長(現任)<br>2017年3月 当社内部監査室・教育研修室管掌<br>2018年12月 当社内部監査室管掌                                                                                                                                                                                                                                       | 3,059,000株     |
| <p>&lt;取締役候補者とした理由について&gt;<br/>           加藤義博氏は、石川秋彦氏と1998年に当社を設立以来、代表取締役社長および取締役会長を歴任し、長年に亘る豊富な経営経験および経営全般に関する知見を有していることから、経営の推進に適任であると判断したため、引き続き取締役候補者として選任をお願いするものであります。</p> |                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                |
| 3                                                                                                                                                                                 | おおたにまき<br>大谷真樹<br>(1971年1月22日)  | 1997年11月 (有)オーケイ 取締役<br>2000年11月 当社入社<br>2001年1月 当社取締役営業本部長<br>2007年2月 (株)アイケイモーターサイクル 取締役<br>2007年5月 (株)パーク王 取締役<br>2007年11月 当社取締役副社長 営業本部管掌<br>2008年6月 当社ダイレクトショップ本部長<br>2009年12月 当社教育研修室管掌<br>2011年9月 (株)パーク王 代表取締役<br>2012年3月 当社駐車場事業部管掌<br>2013年12月 当社小売事業部管掌<br>2014年2月 当社常務取締役<br>2014年12月 当社商品流通事業部管掌<br>2015年2月 当社取締役常務執行役員(現任)<br>2017年12月 当社コンタクトセンター・商品流通事業部<br>管掌<br>2018年12月 当社コンタクトセンター管掌<br>2022年4月 (株)ライフ&カンパニー 代表取締役<br>2022年12月 当社デジタルプロモーション部門管掌<br>2023年12月 当社流通事業部管掌(現任) | 1,100株         |
| <p>&lt;取締役候補者とした理由について&gt;<br/>           大谷真樹氏は、長年に亘り営業部門を牽引し、経営的視点を十分に持ち合わせており、経営全般に関する知見を有していることから、当社の持続的成長および中長期的な企業価値向上に資すると判断したため、引き続き取締役候補者として選任をお願いするものであります。</p>         |                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                |

| 候補者番号                                                                                                                                                                                    | 氏名<br>(生年月日)                    | 略歴、当社における地位、担当<br>および重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 所有する当社の株式数 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 4                                                                                                                                                                                        | さわ あつ し<br>澤 篤 史<br>(1977年2月4日) | 1998年9月 当社入社<br>1999年7月 当社営業部長<br>2002年8月 当社経営企画室長<br>2007年9月 当社経営管理室長<br>2007年12月 当社社長室長<br>2008年12月 当社総合管理本部長<br>2011年3月 当社企画本部長<br>2013年12月 当社マーケティング戦略部門長<br>2014年12月 当社執行役員<br>当社マーケティング戦略部門・インフォメーションセンター担当<br>2017年12月 当社バイクライフプランニング事業部担当<br>2021年2月 当社取締役執行役員<br>当社バイクライフプランニング事業部管掌<br>2021年4月 (株)バイク王ダイレクト 代表取締役<br>2021年12月 当社バイクライフプランニング事業部・流通事業部管掌<br>2022年12月 (株)オズ・プロジェクト 代表取締役(現任)<br>(株)ヤマト 取締役(現任)<br>2023年2月 当社取締役常務執行役員(現任)<br>2023年12月 当社バイクライフプランニング事業部・マーケティング部門管掌(現任) | 53,700株    |
| <p>&lt;取締役候補者とした理由について&gt;<br/>           澤篤史氏は、当社入社以来、長年に亘り営業部門および管理部門の責任者を歴任しており、その経験により当社事業に関する幅広い見識を十分に有していることから、当社の持続的成長および中長期的な企業価値向上に資すると判断したため、引き続き取締役候補者として選任をお願いするものであります。</p> |                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |            |

| 候補者番号                                                                                                                                                                                                        | 氏名<br>(生年月日)                      | 略歴、当社における地位、担当<br>および重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                                                                           | 所有する当社の株式数 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 5                                                                                                                                                                                                            | こみや けんいち<br>小宮 謙一<br>(1968年9月14日) | 1992年4月 ㈱リクルート入社<br>1999年8月 ソフトバンク㈱入社<br>2001年4月 イー・ショッピング・カーグッズ㈱ 代表取締役社長<br>2002年6月 ソフトバンク・ヒューマンキャピタル㈱ 取締役営業本部長<br>2006年9月 ㈱クレディコム設立 代表取締役社長<br>2018年2月 当社取締役執行役員（現任）<br>当社コミュニケーション部門管掌<br>2018年12月 当社事業企画部門・管理部門管掌<br>2020年12月 当社経営戦略部門・管理部門・流通事業部管掌<br>2021年12月 当社経営戦略部門・管理部門管掌（現任） | 1,300株     |
| <p>&lt;取締役候補者とした理由について&gt;<br/>           小宮謙一氏は、他企業において長年に亘り代表取締役社長を務め、経営者としての豊富な経験および見識を有しており、当社における重要事項の決定および業務執行の監督に十分な役割を果たしていることから、当社の持続的成長および中長期的な企業価値向上に資すると判断したため、引き続き取締役候補者として選任をお願いするものであります。</p> |                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                         |            |

- (注) 1. 各候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
2. 取締役候補者の選任については、取締役規程で定めた当社取締役としての資格要件、経営に係る技能・知識に加え、人格等の適性を総合的に鑑み、構成員の半数以上を社外取締役とする諮問委員会の答申を踏まえ、取締役会にて協議して候補者を決定しております。
3. 当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者が負担することとなる職務の執行に関する責任および当該責任の追及に係る請求による損害を当該保険により補填することとしております。各候補者が取締役に選任された場合は、当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。また、当該保険契約は次回更新時においても同内容での更新を予定しております。

(ご参考) 株主総会後の取締役会のスキルマトリックス

本総会において、第2号議案が原案通りに承認された場合の、取締役（監査等委員である取締役を除く。）候補者および監査等委員である取締役の主たる経験分野・専門性は以下のとおりとなります。

|                                         | 候補者<br>番号 | 氏名      | スキル・経験     |                           |             |              |           |     |
|-----------------------------------------|-----------|---------|------------|---------------------------|-------------|--------------|-----------|-----|
|                                         |           |         | 企業経営<br>経験 | 店舗開<br>発／マー<br>ケティング<br>グ | 人材／組<br>織開発 | 財務会<br>計／M&A | ガバナン<br>ス | I T |
| 取締役（監<br>査等委員で<br>ある取締役<br>を除く。）候<br>補者 | 1         | 石 川 秋 彦 | ●          | ●                         |             | ●            | ●         |     |
|                                         | 2         | 加 藤 義 博 | ●          | ●                         | ●           |              |           |     |
|                                         | 3         | 大 谷 真 樹 | ●          | ●                         |             | ●            | ●         |     |
|                                         | 4         | 澤 篤 史   |            | ●                         | ●           |              | ●         | ●   |
|                                         | 5         | 小 宮 謙 一 | ●          |                           | ●           |              |           | ●   |
| 監査等委員<br>である取締<br>役                     | -         | 上 沢 徹 二 | ●          |                           | ●           | ●            | ●         | ●   |
|                                         | -         | 三 上 純 昭 | ●          | ●                         | ●           | ●            | ●         |     |
|                                         | -         | 森 順 子   |            |                           |             | ●            | ●         |     |

(注)上記一覧表は、取締役の有するすべての知見・経験を表すものではありません。

### 第3号議案 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件

監査等委員である取締役が法令に定める員数を欠くこととなる場合に備え、あらかじめ補欠の監査等委員である取締役1名の選任をお願いするものであります。

なお、選任の効力は就任前に限り、監査等委員会の同意を得て、取締役会の決議によりその選任の効力を取り消すことができるものとさせていただきます。

また、本議案に関しましては、監査等委員会の同意を得ております。

補欠の監査等委員である取締役候補者は、次のとおりであります。

| 氏名<br>(生年月日)                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 略歴、当社における地位、担当<br>および重要な兼職の状況                                                                           | 所有する当<br>社の株式数 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| くぼたせい<br>久保田征良<br>(1983年2月25日)                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 2009年12月 第一東京弁護士会弁護士登録<br>2009年12月 長島・大野・常松法律事務所 入所<br>2012年2月 野村総合法律事務所 入所<br>2021年2月 山下総合法律事務所 入所(現任) | —              |
| <p>&lt;補欠の監査等委員である社外取締役候補者とした理由および期待される役割について&gt;</p> <p>久保田征良氏は、弁護士としての専門的な知識と幅広い経験を有しており、当社の監査等に反映していただけると判断したため、補欠の監査等委員である社外取締役候補者として選任をお願いするものであります。なお、同氏は過去に会社の経営に関与した経験はありませんが、企業法務に精通しており、当社の監査等委員である社外取締役としてその職務を適切に遂行できるものと判断しております。また、同氏が就任された場合には、弁護士として培ってきた豊富な知見を、当社の監査体制に活かしていただくことを期待しております。</p> |                                                                                                         |                |

- (注) 1. 候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
2. 久保田征良氏は、補欠の社外取締役候補者であります。
3. 本議案が承認され、久保田征良氏が社外取締役に就任された場合には、独立役員として東京証券取引所に届け出る予定であります。
4. 本議案が承認され、久保田征良氏が監査等委員である取締役に就任された場合には、監査等委員である取締役として、当社と久保田征良氏との間で会社法第427条第1項の規定に基づく同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結する予定であります。ただし、当該契約に基づく賠償責任限度額は、法令が規定する額といたします。
5. 当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者が負担することとなる職務の執行に関する責任および当該責任の追及に係る請求による損害を当該保険により補填することとしております。久保田征良氏が監査等委員である取締役に就任された場合には、当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。

以上

# 株主総会会場ご案内図

会 場 東京都港区海岸一丁目11番2号  
アジュール竹芝 14階「天平の間」



交 通 JR、東京モノレール……………浜松町駅(北口) 徒歩約7分  
地下鉄(大江戸線・浅草線)…大門駅(B2出口) 徒歩約8分  
新交通ゆりかもめ……………竹芝駅 徒歩約1分

※駐車台数に限りがございますので、できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

## ウェブサイトのご案内

当社のホームページでは、会社概要やIR情報、最新のニュースなど様々な情報を公開しております。ぜひご覧ください。

ホームページアドレス <https://www.8190.co.jp/>

IRメール配信サービス <https://www.8190.co.jp/ir/mail/>

